

受賞者決定のお知らせ

住友生命社会貢献事業

第4回『未来を築く子育てプロジェクト』

～子育て支援の3公募事業 受賞者決定～

応募総数 1,484 通

住友生命保険相互会社（社長：佐藤 義雄）は、子育てしやすい環境づくりを目指し、『未来を築く子育てプロジェクト』を2007年度に発足、「エッセイ・コンクール」「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の3公募事業を通して、子育てに関する様々な活動を積極的に応援しています。第4回目となる本年度は、2010年6月1日～9月30日の期間に展開し、合計1,484(前年1,713)通のご応募をいただきました。この度、『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会の選考のもと、下記の通り計44名の受賞者を決定しました。

各事業の受賞概要

エッセイ・コンクール

子育ての苦勞を乗り越え、子どもが自立していく過程で周囲が得る気付きや喜びなど「子育てのすばらしさ」が伝わる作品として、1,186編のご応募をいただき、最優秀賞5編、優秀賞20編を決定。最優秀賞の佐藤奈津紀さんには、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、長坂知穂さんには厚生労働大臣賞が授与されます。

子育て支援活動の表彰

少子化対策や育児子育て支援に資する諸活動を行っている個人・団体からご応募いただきました。計146組の応募の中から、活動のユニークさ、汎用性などを考慮したうえ、未来賞9組を決定いたしました。この9組から「ぶろじえくと えん」と「だがしや楽校だがしや倶楽部」を未来大賞として選出。合計100万円の副賞を今後の活動にお役立ていただきます。また、「ぶろじえくと えん」には、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、「だがしや楽校だがしや倶楽部」には、厚生労働大臣賞が授与されます。

女性研究者への支援

人文・社会科学分野を領域とし、現在子育て中でもある女性研究者152名の方からご応募いただきました。「スミセイ女性研究者支援」として10名の受賞者を決定。10名の受賞者には、1年間あたり上限100万円の研究助成金を最大2年間支給します。

また、表彰式を2011年2月14日（月）にホテルニューオータニ（東京）にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、以下の通りです。



【 『未来を築く子育てプロジェクト』概要 】

主 催：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

後 援：厚生労働省

協 賛：住友生命保険相互会社

審 査 員：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

実行委員長	堀田 力氏	(公益社団法人さわやか福祉財団理事長、弁護士)
実行委員	池田 守男氏	(株式会社資生堂相談役)
実行委員	大日向 雅美氏	(恵泉女学園大学大学院教授)
実行委員	奥山 千鶴子氏	(特定非営利活動法人びーのびーの理事長)
実行委員	金田一 秀穂氏	(杏林大学外国語学部教授)
実行委員	吉永 みち子氏	(作家) 以上、50音順
実行委員	横山 進一	(住友生命保険相互会社取締役会長)

審査結果：

●エッセイ・コンクール

募集内容：“子育て”“子育て”をテーマとしたエッセイを、幅広く募集。

子育ての苦労を乗り越え、子どもが自立していく過程で、周囲が得る
気づきや喜びなどの「子育てのすばらしさ」を伝えていきます。

表 彰： 内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞

（最優秀賞の中から1編）/表彰状

厚生労働大臣賞（最優秀賞の中から1編）/表彰状

最優秀賞 5編 / 表彰状、旅行券 20万円分

優秀賞 20編 / 表彰状、図書カード 3万円分

応募数：計 1,186 編



●子育て支援活動の表彰

募集内容：より良い子育て環境づくりに取り組む“個人”・“団体”を募集。

特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を
促すことで、子育て環境を整備し、子育ての不安を払拭することを
目的としています。

応募規定： 子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること。

活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものである
こと。

活動の公表を了承していただける“個人”“団体”であること。

日本国内で活動していること。

表 彰： 内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞（未来大賞受賞者の1組に授与）/
表彰状

厚生労働大臣賞（未来大賞受賞者の1組に授与）/表彰状

未来大賞 2組 / 表彰状、副賞 50万円

（未来賞受賞者から2組選出。副賞は未来賞と合わせ、計 100万円）

未来賞 9組 / 表彰状、副賞 50万円

応募数：計 146 組



●女性研究者への支援

募集内容：人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成。“育児”のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給。



応募規定： 人文・社会科学分野を領域とし、有意義な研究テーマを持っている。

原則として、応募時点で未就学児（小学校就学前の児童）を育てている。

原則として、修士課程資格取得者、または、博士課程在籍・資格取得者。

2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所などの指導教官または所属長の推薦が必須）。

現在、大学・研究所などに在籍しているか、その意向があること。

支援を受ける年度にほかの顕彰制度、助成制度で研究助成を受けていないこと。

（育児休業給付などは、研究助成に当たりません。）

国籍は問いませんが、応募は日本語に限ります。

表 彰：「スミセイ女性研究者支援」 10名

助成金として、1年間100万円(上限)を最大2年間支給します。

支給期間は2011年4月から2013年3月までの2年間の予定です。

応募数：計152名

【第4回『未来を築く子育てプロジェクト』受賞者一覧】

■エッセイ・コンクール

(氏名・地域・タイトル、50音順、敬称略)

最優秀賞 5編

内閣府特命担当大臣(少子化対策)賞

さとう なつ き (山形県) 「魔法の呪文」

厚生労働大臣賞

ながさか しほ (静岡県) 「子育てって、なんだろう？」

ちば みなこ (栃木県) 「"ぼくのお庭" から広がる地域の輪」

ますおか ももこ (東京都) 「笑顔の連鎖」

もり ちえこ (福岡県) 「小さなお手て、大きなお手て」

優秀賞 20編

いなぎ よしたか (神奈川県) 「育児を手伝う」

えじり しょういち (千葉県) 「井戸端会議」

おおいずみ えり (東京都) 「手と、て」

かきもと きよみ (和歌山県) 「ファミバあちゃんに感謝」

かとう みそら (神奈川県) 「生きるを男も地域社会で」

かめだ まなみ (大阪府) 「幸せのメール」

きたむら ひろみ (神奈川県) 「見知らぬあなたへ」

くまべ りな (福岡県) 「画面より、子供を見る時間」

さかきばら のぶこ (愛知県) 「元祖イクメン」

たなか かゆ (京都府) 「言葉の数珠つなぎ」

なかき あさこ (神奈川県) 「基本、背中で、一生懸命」

なるせ ふきこ (岐阜県) 「うんこコンクール」

はまくち すみこ (大阪府) 「共同育児 万歳！」

ひきた きみこ (大阪府) 「3本目の手」

まるはし やよい (神奈川県) 「100点満点育休パパ誕生秘話」

やまぎ きょうこ (神奈川県) 「ちょっとだけでもね」

やまもと みちよ (山口県) 「母親の孤独に寄り添って」

よこお ミヤ (新潟県) 「一瞬の笑顔」

よしだ かずみ (北海道) 「遠くの親戚より近くの他人」

よしだ くみ (岩手県) 「出会った数だけ」

■子育て支援活動の表彰 (グループ名・地域・活動内容)

未来大賞かつ未来賞 2組

内閣府特命担当大臣(少子化対策)賞

- ・ ぷろじえくと えん (鳥取県岩美郡)

小中学生を主体とする「赤ちゃんとのふれあい会」を中心に、親子で本物の芸術に触れてもらう「アートスタート」などを開催。また、小学校で活動する「読み聞かせ」、「おはなし訪問隊」など多くの活動を展開している。

厚生労働大臣賞

- ・ だがしや楽校だがしや倶楽部 (山形県鶴岡市)

「だがしや楽校」とは、お祭り屋台の形式でだれもが手軽に「趣味・特技・遊び・学び・作品」などを「みせ」る活動。「だがしや楽校」を広く普及・支援することが目的。

未来賞 9組

- ・ 網地島ふるさと楽好(アジシマフルサガッコウ) (宮城県石巻市)

自然豊かな網地島で、島のお年寄りが児童養護施設の子ども達を迎え入れ、島ならではの自然と食の体験とお年寄りとのふれあいの中で、心を癒し、生きる力を身につけさせる取り組み。

- ・ 任意団体「NPO 子どものまち」 (千葉県佐倉市)

子ども達が主体となって参画し、創り出す遊びのまち「ミニさくら」を毎年春に開催。

- ・ 障がいのある子もない子と共に演劇を！「劇団きらきら」 (福岡県糟屋郡)

障がい児と健常児がいっしょに行う劇団活動。

- ・ 特定非営利活動法人 女性と子どものエンパワメント関西 (兵庫県宝塚市)

女性と子どものエンパワメントを目的に、一人ひとりを大切にする社会の実現をサポートするために、子どもの暴力防止プログラムなどの講座やワークショップを開催。

- ・ NPO 法人特別支援教育ネットワークがじゅまる (大阪府羽曳野市)

セミナーやシンポジウムで発達障がいへの理解・認知を深めてもらうとともに、孤立しがちな保護者の交流会や教職員対象の学習会を実施。

- ・ 豊田市男性保育師連盟 (愛知県豊田市)

父親の育児参加を促し、父親が子育てを楽しむことで子ども達に笑顔を増やすことを目的に活動。

- ・ まほうのランプ (東京都新宿区)

順天堂医院小児内科病棟・小児外科病棟・脳外科病棟に入院している子ども達を対象に、「あそび」「学習」「うた」の活動を実施。

■女性研究者への支援 10名 (氏名・所属・研究テーマ、50音順、敬称略)

- ・ いなやま まどか
稲山 円 (東京外国語大学大学院 地域文化研究科 博士後期課程)

研究テーマ: 現代イランにおける宗教と女性
- テヘランにおける宗教儀礼の現地調査から -
- ・ おおむら はなこ
大村 華子 (京都大学大学院 法学研究科 博士後期課程)

研究テーマ: 日本政治における社会保障政策と世論の関係
- ・ さきはら (こみね) ちひろ
崎原(小嶺) 千尋 (ハワイ大学大学院 アメリカ研究学部 博士課程)

研究テーマ: アメリカ人女性と沖縄: 近代沖縄と戦後沖縄を比較して
- ・ しおや あきよ
塩谷 暁代 (名古屋大学大学院 文学研究科)

研究テーマ: 女性が動かすアフリカ・カメルーンの都市・農村地域経済
: 女性商人の生活世界と経済的役割に関する人類学的研究
- ・ ないとう ようこ
内藤 陽子 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 博士後期課程)

研究テーマ: 国境・地域間移動に伴う社会文化的統合: 帰国者の家族の事例から
- ・ にかいどう ゆうこ
二階堂 祐子 (城西国際大学大学院 人文科学研究科女性学専攻 修士課程)

研究テーマ: 出生前検査をめぐる障害女性の語り
- ・ ハ タ エ ワ タ チ ア ナ
KHATAYEVA TETYANA (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 博士後期課程)

研究テーマ: ウクライナの木造教会堂建築
- ウクライナ国ドロゴピチ市の聖ユリイ教会堂(1657)の画像配置
プログラミング -
- ・ バ ロ リ アル バ ナ
Barolli Arbana (新潟大学大学院 現代社会文化研究科 博士後期課程)

研究テーマ: 日本アニメの生成発達と外国における受容について

- ^{ミヤグマル} Myagmar ^{アリウントヤ} Ariuntuya (一橋大学大学院 社会学研究科 博士後期課程)

研究テーマ： 国際教育支援の働きかけおよび教育改革の行方

- モンゴルの就学前教育改革における <子ども中心主義型アプローチ> の
実施実態をめぐって -

- ^{むらかど} 村角 ^{のりこ} 紀子 (無所属)

研究テーマ： 明治期における日本美術史学の形成と展開

- 個人研究者と美術専門出版社の活動を軸に -

以 上